# 月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第 38 号

発行　：レムナントキリスト教会

価格　：１００円（送料込みで２００円）

## 〔目次〕

◎　聖書からのメッセージ：「羊の門」エレミヤ
◎　聖書の中の人々「カインとアベル」
◎　イエスキリストに出会う「１２弟子の足を洗うイエス」
◎　キリストを信じた体験談「渋滞」by S
◎　聖書の教えのエッセンス
◎　聖書に関する有名人のことば：　ロバート・リー　（南北戦争の南軍将軍）

## ＜聖書からのメッセージ　＞

## 「羊の門」 by エレミヤ

本日は「羊の門」という題でメッセージしたいと思います。テキストはヨハネ１０：１～１１です。

### ＜私たちは羊にたとえられる＞

**ヨハネ10:1　「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門からはいらないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。**

　聖書を読む時、人が動物の羊にたとえられていることがわかります。聖書は神の知恵によって書かれた本なので、ほんのささいなことばにも大事な意味があります。聖書が我々を犬とも猫ともたとえず、しかし、羊と描写することには意味があるのです。羊の特徴は何でしょう？羊の特徴は私の理解では弱い、頼りない、自活できない動物という点にあるように思えます。ある人が羊を２匹もらったとの話を聞いたことがあります。そのうちの一匹は雨に濡れて死んでしまったということです。そして、もう一匹は首のなわがからまって死んでしまったということです。雨に濡れて死んだ？自分でひもをからませて死んだ？何とも、弱いというか、愚かというか、羊とは自活できない動物だということがわかります。

　聖書が私たちを羊にたとえると聞いて反発を感じる人もいるかもしれません。
「俺は独立独歩、誰の世話にもならない」
「俺は羊の様な弱い存在じゃない、獅子の様に勇敢だ」でも聖書がそう言う以上、このこと、羊ということを少し考えることが必要か、と思えます。聖書が私たちを羊にたとえる時、それは、比較の問題であると、私には思えます。人間は確かに霊長類の長なのですが、しかし、人を憎む悪魔、サタンと比べるなら弱い存在であり、頼りない存在であり、自力では、対応できない存在なのです。

## ＜羊である人の命を狙う狼、サタンがいる＞

聖書は羊と関連して、その羊の命を狙う狼や盗人の存在を語ります。以下の通りです。

**10:10 盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。**

ここでは、羊を「盗んだり、殺したり、滅ぼしたりする」盗人や狼のことが描かれています。実際の羊は何一つ敵のいない場所ではなく、実はこのような過酷な環境の中で生きているのです。そして羊にたとえられる私たちも実は同じなのです。私たちにはそうと見えないかもしれませんが、聖書が正しければ、私たちも回りを善意や、好意に囲まれて生きているのではなく、実際は隙があれば、我々を「盗んだり、殺したり、滅ぼしたりする」敵、サタンに囲まれて生きているのです。

## ＜サタンの偽りは功を奏している＞

我々がサタンに囲まれて生きている？そんな実感はないかもしれませんが、聖書が正しければそうなのです。私の理解が正しければ、サタンの戦略はこの日本においても大いに成功し、羊である人々は滅びや、命を失う道を一直線に進んでいるように思えます。何をいっているのでしょうか？考えてみましょう。

聖書は、たとえ私たちが全世界の支配者になり、全世界を得たとしても、しかし私たちが永遠の命を失ったらそれは何の意味もないことを語ります。以下のとおりです。

**マタイ１６：２６「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。」**
聖書のいうとおり、私たちにとって、もっとも大事なことは自分の命を得ること、死後の世界において、地獄の滅びでなく、天において永遠の命を獲得することこそが大事なのです。

そして、その永遠の命を得る方法を聖書は語ります。聖書は、神の存在を語り、また人は偶然に生まれたものでもなく、進化したものでもなく、逆に神により、創造されたことを語ります。また、さらに人が人生で行うすべての事に関して、死後神の前に裁きが行われることを述べます。これらのことがらは人の生き方の根幹に関わる大事なことと思われるのですが、しかし、これらは日本においては誰も知りません。そもそも学校でも社会でも、このようなことを知る機会も考える機会もないのです。逆に学校ではサタンの喜ぶ偽りの教え、進化論が大手を振って語られています。その結果、人の人生は偶然に過ぎない、何の意味もないと思うようになっています。この状況、普通に生きている人がもっとも大事なことには触れないで生きているこの状況、これは他でもない、盗人であり、私たちの命を滅ぼしたい狼、サタンの画策が成功していることをあらわしているものなのです。確かにサタンが我々を「盗んだり、殺したり、滅ぼしたりする」計画は大成功を収めているのです。

## ＜羊には牧者が必要＞

**10:11 わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。**

さて、前述の様に何とも自活力のない頼りない羊ですが、しかし、その羊がきちんと食べるものを得、狼や盗人から守られる方法があります。それは、羊を守り、導き、牧草や、水のある場所へ連れて行く、牧者（羊飼い）を得ること、その牧者に羊がついていくことです。そしてその牧者は、すなわち、キリストであることを聖書は語るのです。このような概念、すなわち、我々はか弱く頼りない羊であり、牧者を必要とする、という考えはも

しかすると私たちの信条やモットーと異なるかもしれません。そんな他人任せな　生き方はいやだ、という人もいるかもしれません。しかし、人の常識や自分の悟りに頼らず、しかし、神のことば、聖書に耳を傾ける人に恵みがあります。私自身も今は日々、牧者であるキリストの声を祈りの中で聞きつつ歩むようにしています。すると聞く中で　良い知恵が与えられたり、事前に危険から守られたりしています。昨日もこんなことがありました。英語の外人の先生が必要なので、そのことを祈っていました。神様が語られるように思うので、近くのアメリカンスクールの前に、教師募集のポスターを貼りました。ところが、ポスターはすぐ警備の人に剥がされてしまいました。神様に聞いたはずなのに宣伝する方法が失せてしまったので困ったなと思って祈っていました。そうしたら、不思議なことがあり、近くの外人さんから応募の電話があったのです。その人は、私がコンビニに自転車を置いたほんの５分ほどの間に私の自転車の前かごにあるポスターを見て電話してこられたのです。この様に私たちが愚かでも牧者の声に耳を傾けると助けがあるのです。

**「良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。」**

　ここには、良い牧者であるキリストが羊である私たちを助けるために命を捨てることが書かれています。実際に狼が出没するような場所ではその羊を守るために命がけで戦う羊飼いが存在します。しかしこれはたとえであり、狼であるサタンが羊の命を奪いに来る時、羊飼いであるキリストが自分の命をかけて羊を守るということを語っているのです。そして、これは物語でも大げさな表現でもなく、歴史上実際に行われたことです。キリストの十字架の死の意味合いは、狼であるサタンの攻撃から、私たちを守り、私たち羊が永遠の滅びに入らないようにと、自分の命を犠牲にした死なのです。

　私たちの多くは人から何の恩も受けてない、借金もしていないかもしれませんが、しかし、聖書が正しいなら、私たちの誰もがこのキリストの死という犠牲を受けており、恩を受けていることを語ります。そして、このキリストの死を信じて受入れる人は死後決して滅びや火の池になど入らず、永遠の命を受けることを知りましょう。こんな例でこのことがわかるでしょうか。私個人のことで恐縮ですが、私は高校を出た後、上の学校へ行こうと思いました。私の家は兄弟も多くて経済的に大変なので、自力でアルバイトをしながら、ある学校の試験を受けて合格しました。合格したのはよかったのですが、肝心の入学金がありませんでした。そんな時、近くに住んでいた私の叔母が助けてくれました。当時の入学金１０万円を私に貸してくれたのです。そしてそのお金で入れるはずのなかった学校へ私は入ることができたのです。自分の力では経済的な用意ができなかったのですが、叔母さんの助けで何とか、望んでいた道へ入ることができたのです。それで、学校にいる間、ずっと叔母さんの恩に感謝していたのです。さて、このことに関して少し考えてください。このとき、私が見栄や意地を張って叔母さんの好意を受けなかったら、望んでいた学校生活には決して入れなかったのです。

　キリストの十字架の死とか、その恩とかも同じ意味あいで我々を助けるものであることを知ってください。我々自身では払うことのできなかった罪や、裁きの負債をキリストが負ってくださり、払ってくださったことを聖書は語ります。これを素直に受け取る人、信じる人に救いが来、永遠の命が与えられます。逆にこれを意地を張って拒否するなら、私たちが死後の裁きや罰を免れる道はないのです。この道、キリストによる救いという方法が神の我々に対して用意した唯一の道なのです。このことを知ってください。－以上―

おばさん

## 聖書の中の人々「カインとアベル」

聖書の中には多くの人が記されていますが、どのような人々であったのでしょうか。
創世記では、初めの人アダムとその妻エバが神によって創られたことが記されています。2人は、エデンの園で暮らしていましたが、蛇(悪魔)の誘惑で神の言葉に背きエデンの園から追放されます。その後、生まれた子供がカインとアベルです。兄のカインは土を耕すものとなり、弟アベルは羊を飼う者となります。そして2人は神様にささげ物をしました。

**創世記４：３～５**
**ある時期になって、カインは、地の作物から主へのささげ物を持ってきたが、アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た。主はアベルとそのささげ物とに目を留められた。だが、カインとそのささげ物には、目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。**

兄弟は各自ささげ物を捧げましたが、主はアベルのささげ物には目を留めましたがカインの物には目を留めませんでした。カインはひどく怒り顔を伏せたとあります。なぜ、神様はアベルの物に目を留められたのでしょう。それは、神様は人の心をご覧になっているからです。

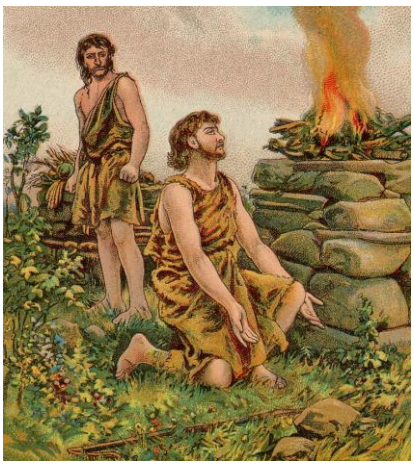
**第１サムエル１６：７「人はうわべを見るが、主は心を見る。」**とあります。アベルは、最上の物を捧げました。彼は神様の恵みに対して感謝し、真心から最も良い物をささげたのです。アベルは神様を愛しており、主はアベルの心を喜ばれたのです。カインにはアベルのような心がありませんでした。また、神様は弟のアベルに対して妬み、憤っているカインの心もご存知でした。

創世記４：７で「**あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたはそれを治めるべきである。**」と言われ、罪の心を正すようにカインに忠告します。しかしカインは弟を妬み、殺してしまうのです。

**創世記４：８～１０**
**しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいた時、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。主はカインに、「あなたの弟アベルはどこにいるのか」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのでしょうか。」**

妬みからカインは弟のアベルを殺しました。そしてカインは神様に対して開きなおり、罪を隠そうとします。イエスは、マタイ１５；１８～１９で「**口から出る物は心から出てきます。それは人を汚します。悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは、心から出てくるからです。**」と言われ、罪は人の心の中にあると言われます。アダムとエバが蛇(悪魔)に騙されてからは、すべての人に罪の心が入りました。

今も同じく人は罪と死に閉じ込められています。神様は人類を恐るべき罪と死から救う為、神の御子イエス・キリストを世に送られました。イエスを信じる人は、罪と死から解放され永遠のいのちの恵みが与えられるのです。


カインとアベル

## イエスキリストに出会う「１２弟子の足を洗うイエス」

イエス・キリストは2000年ほど前イスラエルに救い主として来られました。今は、聖書を通してイエスに出会うことができます。

ヨハネ１３：２～５

**夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が神から出て神に行くことを知られ、夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまとっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。**

ここでは、イエスが十字架にかかられる前日、過ぎ越しの祭りの夕食の席のことが記されています。12弟子と共に食事をした、いわゆる「最後の晩餐」です。弟子たちと過ごす最後の夜であることを知っていたイエスは、弟子たちに愛を残るところなく示されました。イエスは弟子たちの足を洗い、てぬぐいで拭きはじめられたのです。当時、人々はサンダルのような履物をはいており足が非常に汚れたため、部屋に入る際には必ず足を洗う必要がありました。そして足を洗う仕事は、奴隷の中でも最も身分の低い奴隷の卑しい仕事だったのです。弟子たちはイエスが十字架にかかられることは知るよしもありません。師であるイエスの行動に弟子たちは、非常に驚き、戸惑います。また、12人の弟子の足を洗われたイエスでしたが、その中には、その夜イエスを裏切るイスカリオテのユダもいました。イエスは知っての上で裏切るユダの足をも洗われたのです。

では、なぜイエスはこのような行動を起こされたのでしょう。普通は、人にへりくだって仕えるよりも、仕えられる人になりたいと思うのではないでしょうか。この最後の晩餐よりかなり前、ルカ９：４６で**「弟子たちの間に、自分たちの中で、だれが1番偉いかという議論が持ち上がった。」**とあります。弟子たちも偉くなりたいと願っていましたし、一番身分の低い奴隷の仕事などしたくないと思っていたでしょう。

しかし、神の御子であるイエスが、最も低い奴隷のように弟子たちの足を洗われました。それは弟子たちにお手本を示すためだったのです。

ヨハネ１３；１２～１５

**イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席について、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。あなたがたはわたしを先生とも、主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのようなものだからです。それで、主であり師であるこのわたしが、あなた方の足をあらったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。」**

イエスは、口先だけでなく実際に、互いに愛し合い、仕えあう模範を示されたのです。その時はイエスが言われた意味を理解できなかった弟子たちでした。しかしイエスの十字架と復活の後、弟子たちは大きく変えられていきます。彼らはイエスに倣い謙遜で人に仕える者になったのです。

**１２弟子の足を洗うイエス**

## キリストを信じた体験談「渋滞」by S

３、４年前の秋のことです。ちょうど紅葉がきれいな季節で、その日、車で日光へ向かいました。連休だったためか、目的地に着く間、所々渋滞していたのですが、でも、周囲の木々や山々があまりにもきれいに色づいていて、それらをゆっくり見るためにはちょうど良い、という感じでした。 そして目的地に無事、到着して、あたりは湖に囲まれていて、静かでとても良い場所でした。その湖を見ながら、お昼ご飯を食べ、その後、ハイキングコースがあったので、ゆっくりと散歩をして、景色を楽しんでいました。 そんなこんなで、色々と満喫できて、とても感謝でした。それで、いよいよ、「さあ、帰ろう」ということになって・・・途中まではスイスイだったのですが、ある地点に着くと、突如として車がピタッと止まり・・・しかもカーナビには渋滞マークが反映されていなかったので、少しビックリでした。きっとすぐに解消されるに違いない、とおもっていたのですが、あにはからんや、それこそ、何も無ければ３０分もかからないところ、なんと、２時間以上もかかったのです。

それから、いよいよ、いろは坂に入ろうか、という段階で、ふと、カーナビを見ると、はじめから終わりまで渋滞マークがビシーッとついていました。「うーん、まだ渋滞かぁ」とため息をつくドライバー。「そうだね。仕方がないよね」と、半ばあきらめる私。そのときに、ふっと思いました。「そうだ、感謝をしよう」と。それで、心の中で、ずっと、感謝をしていました。ほどなくして、いろは坂に入り、たしかにはじめはカーナビのとおり、渋滞していました。しかし、５分、１０分と走行を続けていくうちに、だんだんと車の流れが良くなってきました。そのとき、カーナビを見ると、まだ、ずっと渋滞が示されていたのですが、なんと、渋滞はみごとに解消されたのでした。ハレルヤ！神さまに感謝です！

あのとき・・・まだ、渋滞中だったときに、もしかすると神さまが「感謝してみたらどう？」なんてことを語ってくださって・・・それできっと助けられたのではないかなぁ、とおもいます。 さいごにみことばを読んで、終わりにします。

**5:16 いつも喜んでいなさい。**

**5:17 絶えず祈りなさい。**
**5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。**
**（新約聖書〔新改訳〕：第一テサロニケ人への手紙5章16～18節）**

**渋滞**

## 私たちが死後決して火の池に投げ込まれないためには：（聖書の教えのエッセンス）

---

＜死後多くの人が火の池に投げ込まれます。自分の人生で犯した全ての罪を火の池の罰で償うようになります＞

**黙示録　20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。**

**マタイ7:13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからはいって行く者が多いのです。**

私たちはその日、自分の人生で犯したあらゆる罪や、不正、嘘、意地悪、悪口、陰口、非難、不満の罪の代価を全て火の池の罰で払うようになります。

＜全ての人の人生に2つの定まったことがあります＞

それは、どのような人も必ず死ぬこと、さらに死後誰でも必ず神の前で裁き（裁判）の座につくことです。裁判の結果、ある人は永遠の命を受け、ある人は火の池に投げ込まれます。

**ヘブル 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、**

＜神は私たちが滅びに至らないため、救いの道を用意しておられます＞

それは、私たちの罪の身代わりとしてキリストが十字架で死なれたという方法です。聖書によれば、キリストは神のひとり子（たった一人の子供の意味）なのですが、神はその命を犠牲にして私たちに救いの道を用意してくださった、ということなのです。以下のことばの通りです。

**ロマ4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。**

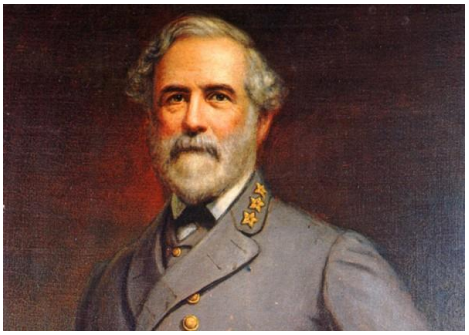
**ヨハネ5:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。**

＜キリストを信じるものは死後、罪のために罰を受けることはない＞

**ヨハネ 3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。**

ここに書かれているように、神の御子であるキリストを信じるものはさばかれず、とがめられず、死後火の池の罰に入ることもありません。

## 聖書に関する有名人のことば：
## ロバート･リー （南北戦争の南軍将軍）



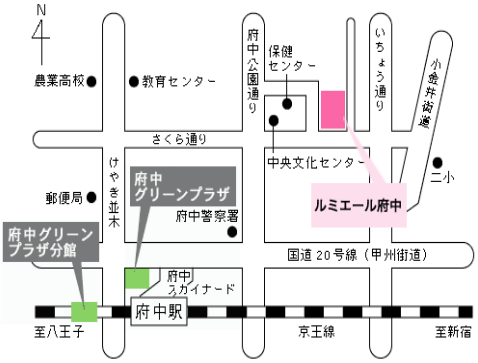
**「私の（人生の）全ての当惑や、苦悩の中でどんな時でも私が聖書から光や力を与えられなかったことはない。」**

---

**＜お知らせコーナー＞**

**●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内**

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30－12:30,午後 14:00－16:00
場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042－364－2327, mail:truth216@nifty.com




**★　教会のHPもあります。**
**ご興味のある方は、“Yahoo！Japan”で、「府中　レムナントキリスト教会」で検索ください。**
**尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。**
**☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ＆ミルトス**
http://remnantnotudoi.jimdo.com/
**☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家**
http://87494333.at.webry.info/
**☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋**
http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/
**☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風**
http://whattopics.at.webry.info/